

授業科目名	開講 年次	開講 学期	講義 種類	単位数	担当教員名
保育実習Ⅲ	2	前期	実習	2	池増 知予子

○授業の到達目標

1. 保育実習の意義を理解し、目的を整理する。社会福祉施設等における保育について理解する。
2. 既習の知識や技術に関連させ保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録、自己評価について理解し、保育の改善につなげることができる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 事後学修を通して、実習の総括と自己評価を行い、自己洞察、自己研鑽につなげる。

○授業の概要

社会福祉施設等において実習を経験する中で、保育士の専門性と職業倫理を培う。また、利用者（子ども）にかかわる中で、観察や記録、自己評価を行い、これまで学んできた知識や技術を再確認し、習得できるようにする。さらに、他専門職との連携や社会資源の活用など利用者（子ども）の環境について理解する。

なお、本科目はレクリエーションインストラクター資格取得にかかわる。

○授業計画

【事前学修】

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について理解する。

実習先施設の法的根拠や理念を理解し、それらが支援にどのように反映されているか理解する。

実習先施設の役割について社会資源や他専門職との連携なども踏まえ理解する。

実習先施設の機能について職員からの指導や利用者（子ども）とのかかわりの中から理解する。

1 施設における支援の実際

(1) 受容し、共感する態度

利用者（子ども）の権利擁護や特性などの知識をもとに専門職としてのかかわりを学ぶ。

バイスティックの7原則などこれまでに学んできた知識を技術として体現していく。

利用者（子ども）とのかかわりを通して自己洞察を行い、専門職としての態度を理解する。

(2) 利用者（子ども）のニーズの把握と利用者（子ども）理解

利用者（子ども）とのかかわりを通して個々人のニーズを理解する。

ニーズにも様々な種類があることやそのニーズをもとに支援することを理解する。

ニーズを含めた利用者（子ども）の全人的な理解に努める。

(3) 個別支援計画の作成と実践

個別支援の展開過程を理解し、利用者（子ども）の個別支援計画につなげる。

利用者（子ども）に対する支援計画の重要性と計画を立てるための視点について学ぶ。

計画を実践し、自己評価やスーパービジョンを通して専門職の技術を学ぶ。

(4) 利用者（子ども）の家族への支援と対応

実習先施設で実施されている家族への支援について講義等を通して学ぶ。

家族支援の機会があれば同席するなどして実際の支援について学ぶ。

(5) 各施設における多様な専門職との連携・協働

実習先施設における他専門職との連携及び協働について理解を深める。

地域の社会資源としての施設の役割や機能について理解する。

専門職によって異なる利用者(子ども)の理解について学び支援会議等の重要性を理解する。

(6) 地域社会との連携・協働

利用者(子ども)は生活体であり、地域住民であることを理解し、地域とのつながりについて理解する。

地域の中にある施設としてどのような連携や協働が図られているか、行事支援などから理解する。

民生委員や学校教育、その他社会資源とのつながりについて理解する。

2 保育士の多様な業務と職業倫理

実習先施設における保育士の役割を理解するとともに利用者(子ども)の生活を支援することの意義を理解する。

生活を支援するためには多様な業務があることを理解し、専門職のかかわりについて理解する。

保育士倫理綱領はもとより実習先施設の倫理綱領、ソーシャルワーカーの倫理綱領など様々な倫理に触れ、保育士がかかわることの意義を学び実践する。

【事後学修】

実習における自己の課題を理解する。

実習後に実施される自己評価及びアンケートを通して実習を振り返り、課題を明確にする。

明確となった課題について実習事後指導や他科目等を通じて解決できるように努力する。

必要に応じて実習担当教員からのスーパービジョンを受ける。

○テキスト

「新保育基本シリーズ② 保育実習」 公益財団法人児童育成協会監修、中央法規

○参考書・参考資料等

「幼稚園教育要領解説」(最新版)文部科学省、フレーベル館

「保育所保育指針解説」(最新版)厚生労働省、フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

「楽しさをおとした心の元気づくり—レクリエーション支援の理論と方法—」公益財団法人日本レクリエーション協会

○学生に対する評価

実習園からの評価(4段階評価) 70% 実習記録などの提出物 30%